

避難訓練 評価報告書

作成日：2016年12月19日
作成者：学校法人木の実学園
木の実幼稚園
理事長 中矢謙一郎

<総評>

今年で5回目となるこの度の避難訓練も、避難先である垣生中学校はもとより、垣生地区の自主防災会連合会や交通安全協議会、垣生駐在所より御理解と御協力を賜れたおかげで執り行えたものであり、地域の方々へ深く感謝申し上げます。

今年度も垣生中学校の先生方と中学2年生の皆さんのご協力により、中学2年生が年少児と年中児を校舎4階の多目的スペースまで避難させるという合同避難訓練の形を取れ、子どもたちにとって「津波から身を守る」とはどういう行動なのかを体感する大変貴重な機会となりました。

避難訓練は、上述の各会の方々が生徒の避難ルートの要所に立って頂けたおかげで、今年も事故なく全参加園児が無事に垣生中学校へ到着致しました。また、避難にかかる時間は、これまでで最も短い時間で避難を終えられました。その改善要因を右に記すと共に、今後の訓練に活かしてまいります。

<記録：避難開始から垣生中学校到達までに要した時間>

平成24年度：先頭の到着 ⇒ 41分 最後尾の到着 ⇒ 50分 (9分差で到着)
平成25年度：先頭の到着 ⇒ 21分 最後尾の到着 ⇒ 26分 (5分差で到着)
平成26年度：先頭の到着 ⇒ 24分 最後尾の到着 ⇒ 28分 (4分差で到着)
平成27年度：先頭の到着 ⇒ 24分 最後尾の到着 ⇒ 30分 (6分差で到着)
平成28年度：先頭の到着 ⇒ 19分 最後尾の到着 ⇒ 23分 (4分差で到着)

避難開始から先頭到着までの平均時間 ⇒ 26分
初年度を除く先頭到着までの平均時間 ⇒ 22分
避難開始から最後尾到着までの平均時間 ⇒ 32分

初年度を除く最後尾到着までの平均時間 ⇒ 27分

<個別事案と今後について>

- 避難時の隊列の組み方は、これまでの改善の通り「年長（5歳児）と年少（3歳児）がペアになること」が有効であり、この隊列を定型として維持します。
- 昨年度の教職員反省会が出されたアイデアである「隊列を大きな二つのグループに分割して避難する」ことを実施（実際には4グループに分けて実施）しました。この改善案は、「隊列」が長い場合に繰り返し発生する小さな遅れの蓄積により、最後尾付近は早歩きか、時には駆け足のように進まなければ隊列を維持できなかったことへの反省から出たものでした。小さな遅れの蓄積を和らげて、安全に歩行する点に改善が見られたと共に、途中で後続を待つ回数が減ったことにより安定した速度での歩行が見られ、避難にかかる時間を短縮できたように感じられた。
- 隊列の位置や学年により怪我がどの程度発生するか実態把握をする為、今回の訓練から転倒して怪我をした園児数をカウントすることを始めました。結果としては、学年により歩行の安定さに違いはあるものの、(先のグループに追いつこうとするからか) 隊列後方の方が怪我の発生しやすい結果となりました。

(隊列前方) ひまわり組・年長・年少のペア歩行 2学年9クラス (参加187名)
⇒ 怪我の発生17件 発生率0.9%

(隊列後方) 年中 1学年4クラス (参加105名)
⇒ 怪我の発生15件 発生率1.43%

- 今年も中学生に手を握って頂きながら年少児を校舎4階へ引率頂いたおかげで、高いところへ避難する体験ができました。やはり、この行為そのものが「避難行動」の体感の一歩目であり、幼子にとっては貴重な体験・経験になったと強く感じました。これからも是非継続をお願いできると幸いです。

南海トラフ大地震の際に発生する津波により、瀬戸内の松山地方で水位の上昇が始まるまでに2時間強の時間があるとされています。東日本大震災の際に大変短い時間で津波が到達した地区地域であっても、命を落とした人がゼロの場所もありました。この事実を踏まえ、訓練の結果に満足せず、学校全体の習慣および約束事として「いざという時の行動」を明確にすべく、今後も訓練・評価・改善を継続していきたいと考えております。今年度も、大変お世話になりました。

(以上)